

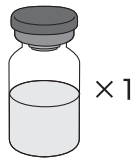
ゴナックス[®]皮下注用80mg (維持用) 調製方法

2回目以降の維持用量(4週ごと)は80mgです。

箱に入っているもの

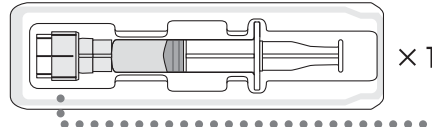
- ゴナックス皮下注用80mgバイアル1本
- 専用溶解液(日局注射用水4.2mL)×1本

バイアル



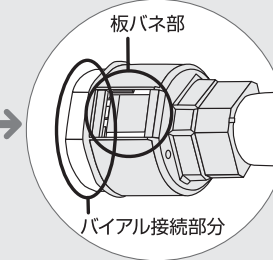
×1

専用溶解液(バイアルアダプター付)



×1

バイアルアダプター部分拡大図



板バネ部

バイアル接続部分

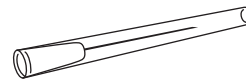
注意

バイアル接続部分に触れないでください。
板バネ部を持たないでください。

準備が必要なもの

- 注射針1本(25G、1インチまたはそれに近い針：注射時に使用)

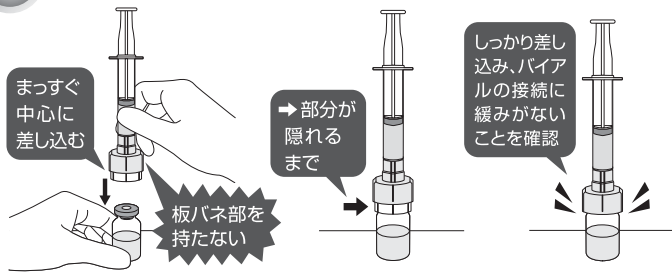
注射針



×1

調製方法

1 バイアルに差し込み接続



まっすぐ中心に差し込む

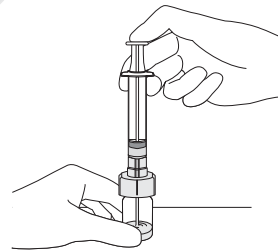
→部分が隠れるまで

しっかり差し込み、バイアルの接続に緩みがないことを確認

板バネ部を持たない

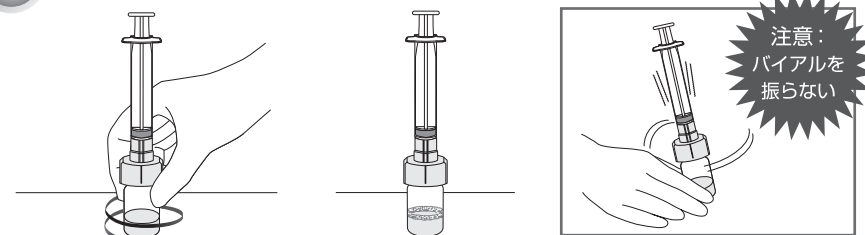
あらかじめキャップを外しておいたバイアルのゴム部分にバイアルアダプターをまっすぐ奥まで刺し、固定します。バイアルアダプターがバイアルの肩に来るまでしっかりと差し込んでください。

2 注射用水をバイアルに注入



注射用水を注入します。この後、⑤の操作までシリンジとバイアルアダプターは離さないでください。注入後、プランジャーが少し戻ります。

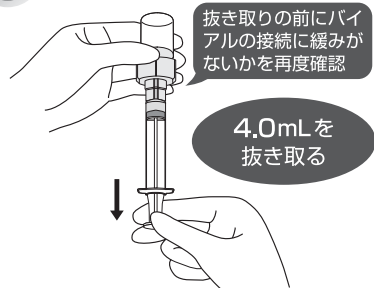
3 バイアルを垂直に保ちゆっくり旋回



注意：バイアルを振らない

バイアルを垂直に保ちます。溶液が透明で粉末や塊状の溶け残りがいない状態になるまで、バイアルを垂直に保ったまま、ゆっくりと回します。粉末がバイアルの液面より高い位置に付着した場合は、バイアルを傾けて粉末を溶解させます。気泡の形成を防ぐため、バイアルは振らないでください。液面に小さな気泡が浮いても差し支えありません。通常は数分で溶解します。

4 薬液の抜き取り

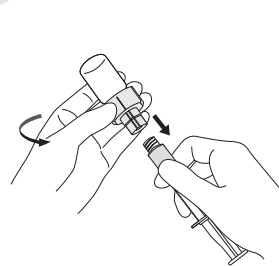


抜き取りの前にバイアルの接続に緩みがないかを再度確認

4.0mLを抜き取る

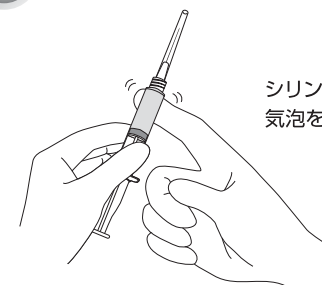
バイアルを倒立にして、シリンジのプランジャーをゆっくりと引き、薬液4.0mLを抜き取ってください。必要に応じてバイアルを傾けても構いません。(規定量を抜き取った後に、バイアル内に薬液が残ることがありますが問題はありません。)

5 シリンジをバイアルアダプターから外す



プランジャーが動かないように注意して、バイアルアダプターを回して、シリンジを外します。

6 注射針を取り付け気泡を取り除く



シリンジに注射針を付けて、気泡をすべて取り除きます。

[シリンジ：ロック式]

- (注意) ● プリスター包装が破損している場合や製品に破損等が認められる場合は使用しないでください。
● プリスター包装を開封したらすぐに使用し、使用後は直ちに安全な方法で廃棄してください。
● シリンジが破損するおそれがあるため、強い衝撃を避けてください。

溶解後は速やかに投与してください。

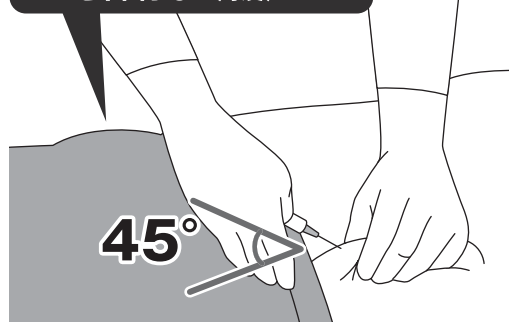
ゴナックス[®]皮下注用80mg(維持用) 投与方法

2回目以降の維持用量(4週ごと)は80mgです。

■ 投与方法

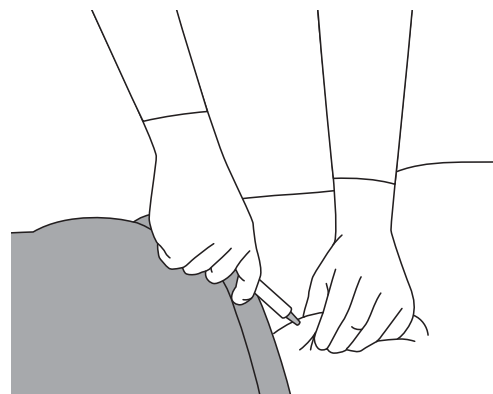
7 注射針を刺す

深部皮下注射です
(注射針 25G 1インチの場合
45°を下回らない角度)



腹直筋等に針が到達することがないように、腹部の皮膚を十分な範囲つまみ、皮下組織を持ち上げます。注射針は25G 1インチを使用している場合、45°を下回らない角度で針を立てて深く刺し入れます。深すぎると筋肉注射となってしまう、浅すぎると皮膚が腫脹する場合がありますのでご注意ください。

8 プランジャーをゆっくり引き戻す



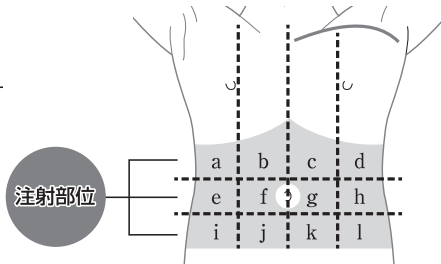
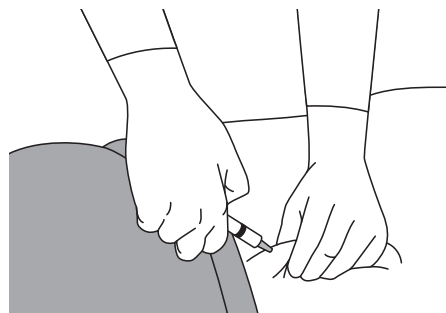
プランジャーを緩やかに引き戻して、血液の逆流がないことを確認します。

9 薬液の注入

プランジャーを押して注射液をゆっくり注入します。

(薬液は1mLあたり10秒を目安に、ゆっくり注入して下さい。)

疼痛、硬結、紅斑、腫脹、熱感等の注射部位反応が報告されていることから、ベルト周り等圧迫される部位および肋骨近辺を避けてください。



腹部を12分割し、注射部位の詳細な管理をお願いいたします。次回投与時には、前回と同じ部位への投与を避けてください。

注意事項

- 溶解後速やかに投与してください。[本剤を調製後1時間以上放置すると、注射液が懸濁又は粘度を増すことがあり、その結果、薬物の放出能に影響を及ぼすおそれがあります。]
- 投与後は、注射部位周辺をもまないよう患者さんに指導してください。
- 同じ部位への投与とならないように注射した部位はカルテに記載してください。